

2009 (平成21) 年3月10日

東京都病害虫防除所

平成 20 年度 病害虫発生予察情報 特殊報 第 1 号

病害虫名： ハコベハナバエ

Delia echinata (Seguy)

対 象： ホウレンソウ

1. 特殊報の内容

東京都内のホウレンソウでハコベハナバエの発生を初めて確認した。

2. 発生経過など

- (1) 2008 年 10~11 月にかけて、昨年度に神奈川県の特報で報じられたものとよく似たハエ類が町田市内のホウレンソウに発生しているとして、普及センターよりサンプルが持ち込まれた。そこで、横浜植物防疫所にサンプルを送り同定を依頼したところ、ハコベハナバエであることが確認された(平成 21 年 2 月 10 日付け)。
- (2) 持ち込まれたサンプルは幼虫であったが、当防除所で飼育したところ翌日蛹になった(図 1,2)。さらに、およそ 3 週間後にはこれらの蛹から成虫が羽化した(図 3)。
- (3) 最初に同種の発生が報告されたのは町田市小野路町および金森のホウレンソウ圃場(露地, 10 月播種)であったが、その後、今年 2 月になり八王子市小比企町のホウレンソウ圃場(トンネル被覆, 11 月播種)にも発生が確認された。いずれの圃場においても、10~11 月播種の初期展開葉への寄生が認められた。両市内ではさらに別の圃場での発生も確認された。

3. 形態および生態

(1) 形態

成虫は体長 6~7mm, 胸・腹部は灰黄色粉で覆われた黒色。幼虫は淡黄緑色, 体長 6mm 内外(「日本農業害虫大辞典」)。種の同定には、雄交尾器等の形態の観察が必要である。

(2) 生態

詳細な生態は未解明であるが、タネバエと同様の経過を辿っているものと推定される。老熟幼虫は加害部から脱出して土中で蛹化, 約 2 週間で成虫が羽化する。おそらく年 3 世代以上を繰り返すものと考えられる。かつて東京のカーネーション栽培で大きな被害を被った(「日本農業害虫大辞典」)。

4. 被害

(1) 産卵は葉の先端裏側に点々となされる。幼虫は最初, 若い葉に潜入して葉肉を食害する。葉身に入るとハモグリバエのように表皮を残しながら葉肉を食害し、さらに近くの葉へ移入しながら食害

を続け、その後、成長点付近に潜入して若い組織を食害する。被害を受けた葉は潜孔部から萎凋・黄化し、生長点への食入は芯止まりとなり、上物率の低下や株の枯死による収量減の原因となっている。
(2)和名の示すようにハコベ、オランダミミナグサなど野外のナデシコ科雑草にも寄生が見られる。

5. 防除対策

- (1) 現在のところ登録薬剤はないので、被害の発生する秋まきホウレンソウではネット被覆等による物理的防除に努める。また、窒素や有機物の多用は成虫を誘引するので避ける。
- (2) 前述の雑草が発生源となって栽培種に移動する可能性があるため、これら雑草の防除に努める。

7. 図



図1 ハコベハナバエの幼虫



図2 ハコベハナバエの蛹



図3 ハコベハナバエの成虫



図4 ホウレンソウの被害状況



図5 ハコベハナバエの発生したホウレンソウ圃場



図6 ハコベハナバエの発生したホウレンソウ圃場